

台湾大地震～はばたけ，台中日本人学校～

平成11年9月21日（火）午前1時47分頃（現地時間），台湾中部を震源とするマグニチュード7.6の大地震が発生しました。この地震による被害の中には，台中市の東の山のすそ野に建っていた台中日本人学校（江原要七校長）が大きく損壊して，地盤も割れて褶曲^{しゅうきよく}し，使えなくなったこともあります。日本人学校はその地域に進出している日本企業の駐在員など^{在留邦人}の団体が中心になって，子ども等の教育のために設立されているもので，文部省では，国・公・私立の小中学校の教員を派遣するなどして，日本人学校を支援しています。

携帯電話で安否確認を試みながら，停電の暗闇の中，道路の通行規制に遭いながら，夜明けころ，学校にたどり着いた江原校長は，学校の姿を目の当たりにして茫然となりました。涙をポロポロ流す派遣教員もいました。しかし，悲しみに浸ってはいられません。まずは，教職員，児童生徒の安否確認です。電話がなかなかつながらず，教員たちは手分けして家や避難所をまわって，安否を確認しました。今回の地震では，幸いにも，台中日本人学校の児童生徒とその家族，教職員とその家族も全員無事でした。

そうするうちに，避難所に児童生徒・家族を訪れる江原校長は，子どもたちから，「学校はこわれちゃったの？ どうするの？」，「23日の水泳大会はどうするの？」などと問いかけられ，学校再建の意志を固くしました。しかし，まずは，間借りしてでも授業を再開することです。幸い，台中市内のエンゼル幼稚園が，教室を貸してくれることになり，引っ越しに要する期間も見込んで，10月11日授業再開と決めました。地震発生から2日目のことです。

校舎の再建にも光が射し込みました。10月7日夕方に李登輝総統が台中日本人学校を視察し，江原校長が土地探しに悩んでいることを知り，翌朝に候補地を提示させました。

11日朝9時20分，エンゼル幼稚園の礼拝堂で，授業再開集会が開かれました。そこには，久しぶりの学校にニコニコと笑顔満面で登校してきた児童生徒，それを迎える^{はつらつ}とした教員たちの姿がありました。挨拶に立った江原校長は，「みなさん，おはようございます。」の後，万感胸にこみ上げられたのか，しばし言葉につまりましたが，最後には，「みんな，いままでよりもいい学校をつくるからな。」と力強く締めくくりました。目頭にハンカチを当てる保護者の姿もありました。

在留邦人が主体となって設立し，運営される日本人学校の新校舎の再建には，資金集めなど，途は平坦ではありません。政府では，建設資金の補助，災害後の子どもたちの心のケアなどの支援をしていきます。



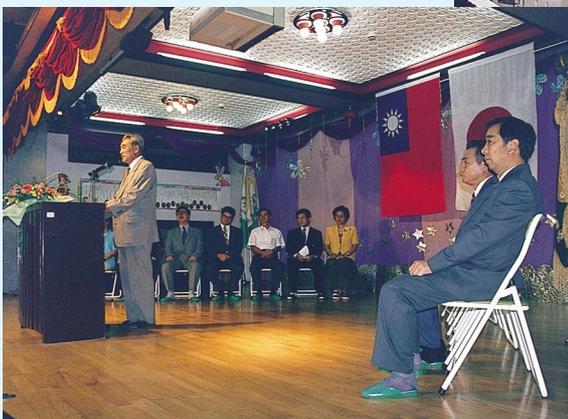
台中日本人学校の被害状況



(運動場)



再会を喜びあう子どもたち
(平成11年11月11日)



授業再開に当たって子どもたちを励ます江原校長(平成11年10月)